

令和6年度

農業支援サービスにおける 「標準サービス」策定事業のご説明

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社
2025年10月20日



Shape the future
with confidence



The better the question. The better the answer. The better the world works.

目次

1. 標準サービスについて

1.1 標準サービス策定の背景

1.2 標準サービスの概要・対象範囲

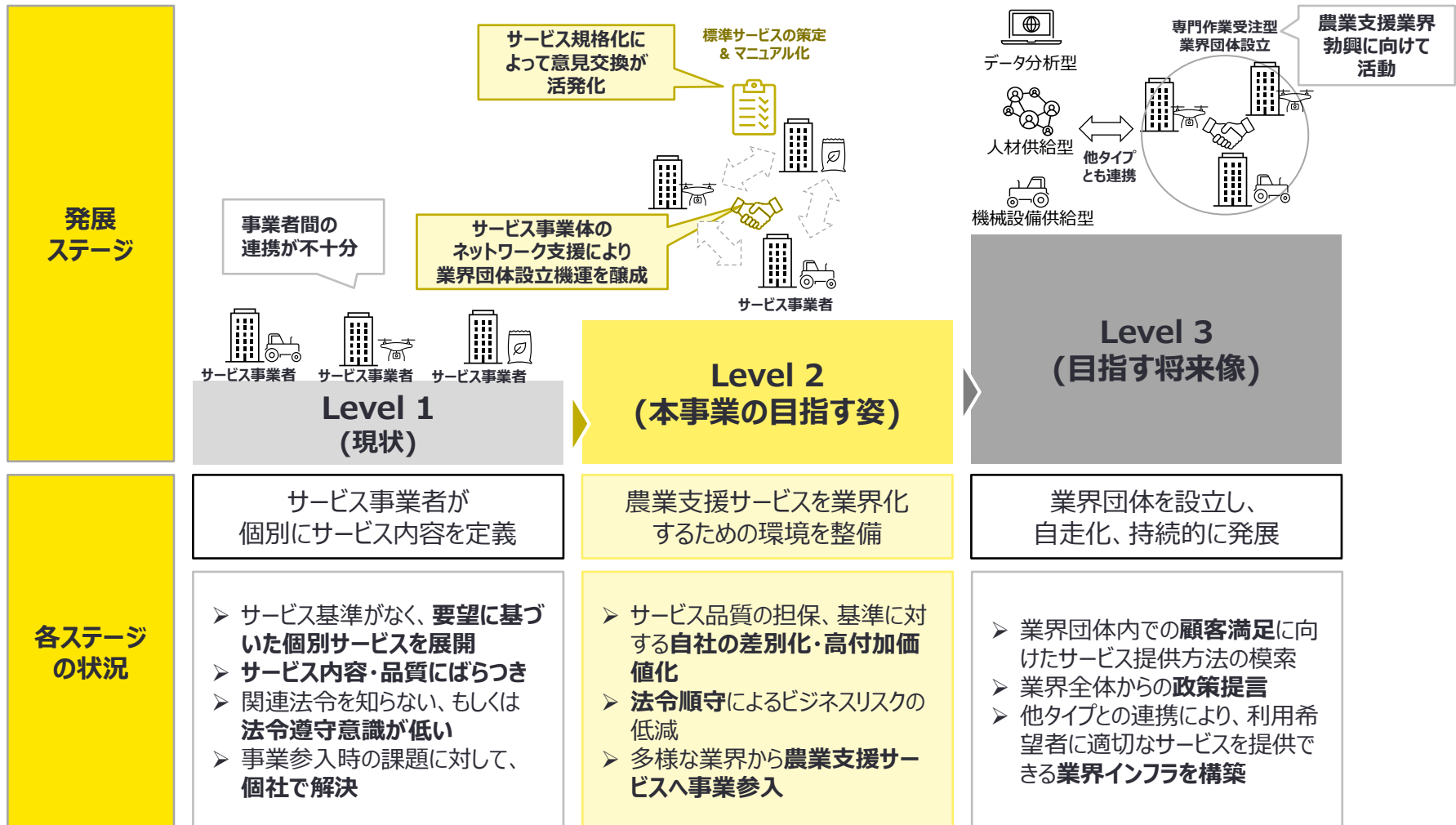
1.3 標準サービスと作業マニュアルの違い

1.4 調査内容のご紹介

1.5 今後のスケジュール

1.1 本事業における背景（本事業の目指す将来像）

農業支援サービスの発展においては、業界が自律的にサービス品質を向上していくことが理想であり、その土台となるサービス標準化や業界団体設立への機運醸成がカギを握ると理解



農業支援サービスとは農業者の生産性向上、労働負荷軽減等を目的としたサービスと定義されており、本事業ではそのうち「専門作業受注型」をターゲットとした標準化等が対象となる

- 農業支援サービスとは、農業現場における作業代行やスマート農業技術の有効活用による生産性向上支援等、農業者に対してサービスを提供することで対価を得る業種のことを指し、以下のようなタイプに分類される

作業サポート型



専門作業受注型

播種や防除、収穫などの農作業を受託し、農業者の**作業負担を軽減**するサービス

サービス提供例

- ドローンによる農薬散布代行
- ラジコン草刈り機による草刈り代行
- 収穫作業代行
- 施肥作業代行

本事業は「専門作業受注型」のみを対象とする



機械設備供給型

機械・機具のリース・レンタル、シェアリングにより、農業者の**導入コスト低減**を図るサービス

具体例

- 高機能農機のシェアリング



人材供給型

作業者を必要とする農業現場のために、**人材を派遣**する等のサービス

具体例

- 短期労働人材マッチング
- 農業人材派遣

判断サポート型



データ分析型

農業関連データを分析して**解決策を提案**するサービス

具体例

- 生産管理システム
- 病害虫診断
- 土壌分析

※一部事業者においては、複数タイプを複合的に提供している場合も存在

専門作業受注型の中でも、将来的な需要拡大やトラブル事例が多いサービスを標準化の優先度が高いと判断し、標準化対象サービスとして選定

標準化対象のサービス事業（本事業のスコープ）



ドローンによる 農薬散布代行



畦畔等草刈代行



稲作収穫代行

標準化の対象とするサービスの概要

- 無人航空機（ドローン）で農薬を圃場に散布する作業を、有償で受託

- 農地及びその周辺（畦畔・法面等）の雑草を機械で除去する作業を、有償で受託

- 成熟した水稻をコンバインで収穫し、搬送・記録・確認まで行う作業を、有償で受託

対象業務

（差別化業務を含む）

- 農薬の調整・準備
- ドローンの操縦・散布
- 飛行記録の取得・提出

- 刈払機による草刈り作業
- 危機物の事前撤去
- 飛び石対策の実施

- 収穫作業（刈り取り・脱穀）
- 水分測定・記録
- 搬送・引き渡し業務

選定理由

- 地域農家やベンチャー等の様々な事業者が参画しており、トラブル事例が頻発

- 作業負荷が高く、高齢化に伴い、需要が拡大
- 使用機材によってリスクが変化

- 農機の自社保有は採算性が合わないため、収穫代行の需要が拡大
- 品目ごとに収穫プロセスが異なるため、代行需要の大きい水稻に限定

備考

- 対象農薬は殺虫・殺菌・除草剤等
- 飛行許可・事前調整含む一連業務

- 刈り取り後の処理・片付けを含む
- 対象区域は農業用地関連

- 作業後の報告・トレース業務は付帯的要素として設計される場合あり

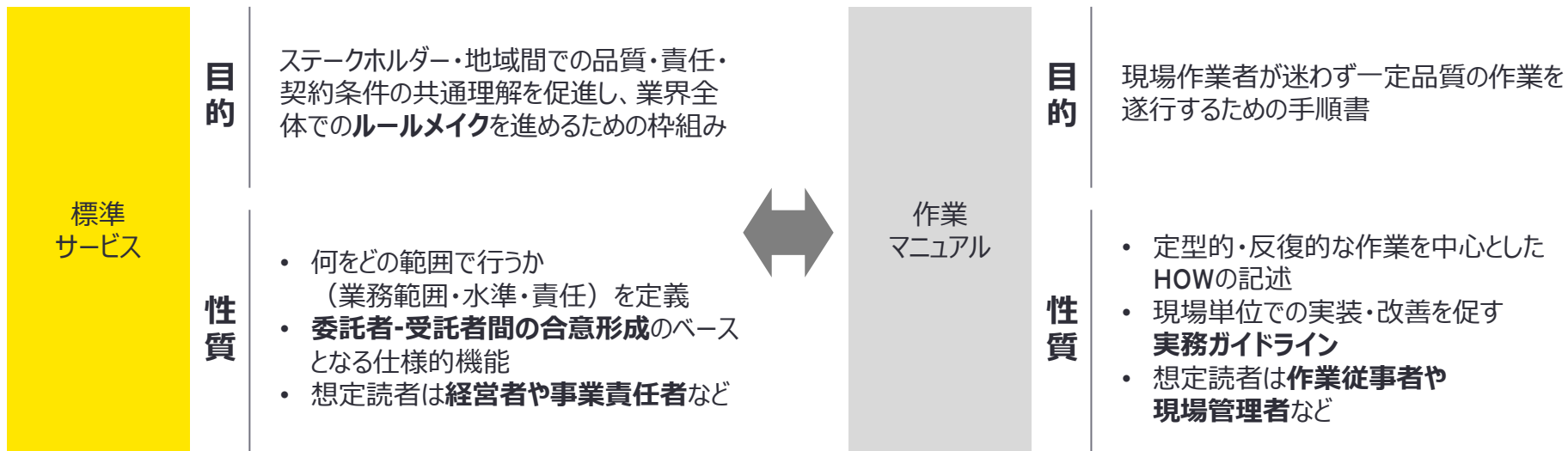
（参考） 対象外業務の例

- ドローンの販売・貸出のみ
- 農薬の散布を伴わない飛行等
- 無償散布

- 公共空間（単独）の除草
- 人力のみの草むしり
- 道路法面の專業請負

- コンバインの貸与のみ
- 単純な人手支援のみ
- 収穫を伴わない乾燥・調製作業

既存のマニュアルに重ねるのではなく、現場の実務と経営判断の接点を意識したルール整備を進めることが重要



標準サービスは、作業手順（HOW）に重点を置くのではなく、**受委託が伴う農業支援サービス**において、**トラブルの発生件数を減らし、発生時には迅速に対応・沈静化**することを重視した内容となっている

1.3 標準サービス構成要素

サービス事業者および農業者にヒアリングした結果を基に、トラブルが発生しやすい要素を特定し、標準サービス検討の際の初期的項目案と記載内容案を作成しました

1
本調査において
対象とする
サービススコープ

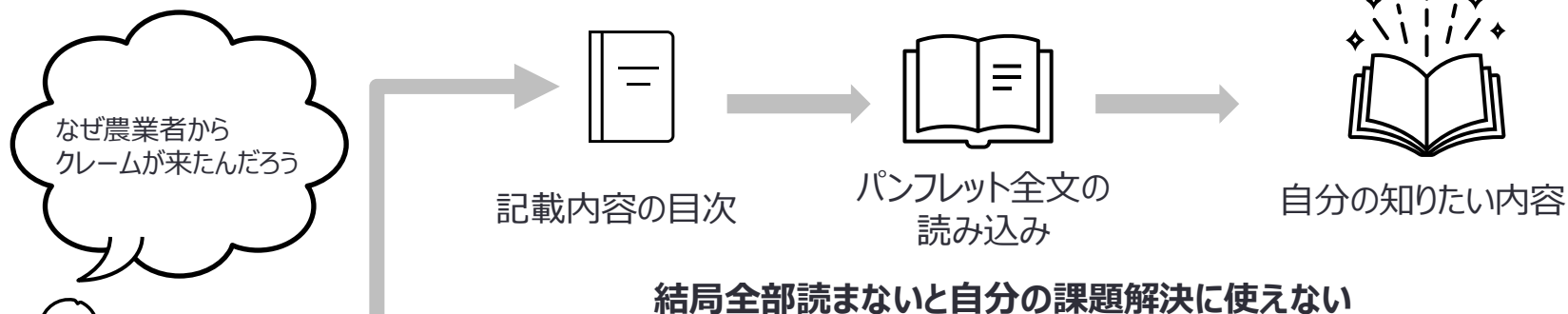
項目区分	記載項目	例1 ドローン農薬散布	例2 雑草刈り作業委託	例3 稲作の収穫	..
サービス内容	作業の内容	農業用ドローンを用いて農薬を散布する	ラジコン草刈り機を用いた圃場およびあぜ道の草刈り	コンバインによる刈取・脱穀およびモミの搬出・運搬、乾燥施設等への引き渡し	
	作業の対象	水稻、畑作	田畑、果樹	水稻	
	使用機器	農薬散布ドローン	ラジコン草刈り機	コンバイン（運搬車）	
	使用する消耗品	農薬	ガソリン	軽油	
サービス品質	作業実施条件	<ul style="list-style-type: none"> 上空xx m以下で散布 風速xx m/s以下の条件化でサービス提供 	<ul style="list-style-type: none"> 斜度30度(仮)以下の圃場・圃地およびその周辺域で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 請負範囲（収穫作業のみ/乾燥調製まで含む等） 収穫エリア（同一JA管内でカントリーエレベーターの共同利用が可能等） 	
	サービス品質の評価軸	<ul style="list-style-type: none"> 一様に農薬散布ができていないか 周辺の田畑に散布農薬が飛散していないか 	<ul style="list-style-type: none"> 刈り取りムラが無いのか 雑草が刈り残っていないか 迅速に作業完了したか 	<ul style="list-style-type: none"> 天候や倒伏による品質劣化が発生していないか 適正な時期に刈取できるか コンタミネーションが発生していないか 	
契約手続き	一般的な契約書ひな形	請負契約書例を添付	請負/準委任契約書例添付	請負契約書例を添付	
	契約金額設定方法	<ul style="list-style-type: none"> 散布面積×委託規模に応じた散布単価（+必要に応じ農薬代） 1散布あたりの固定費用+散布面積×散布単価（+必要に応じ農薬代） 	<ul style="list-style-type: none"> 刈り取り面積×委託面積に応じた作業単価 1委託あたりの固定費用+刈り取り面積×単価 作業時間×委託面積に応じた人件費単価（+必要に応じ燃料代） 	<ul style="list-style-type: none"> 刈り取り面積×委託面積に応じた作業単価 1委託あたりの固定費用+刈り取り面積×単価 作業時間×委託面積に応じた人件費単価（+必要に応じ燃料代） 	
	提供内容の検収方法	<ul style="list-style-type: none"> 目視での作業実施確認 農薬使用量の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 刈り取り状況の現場確認 作業開始と終了の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 目視での作業実施確認 	

2
本調査対象となる
サービスにおいて
標準化すべき要素

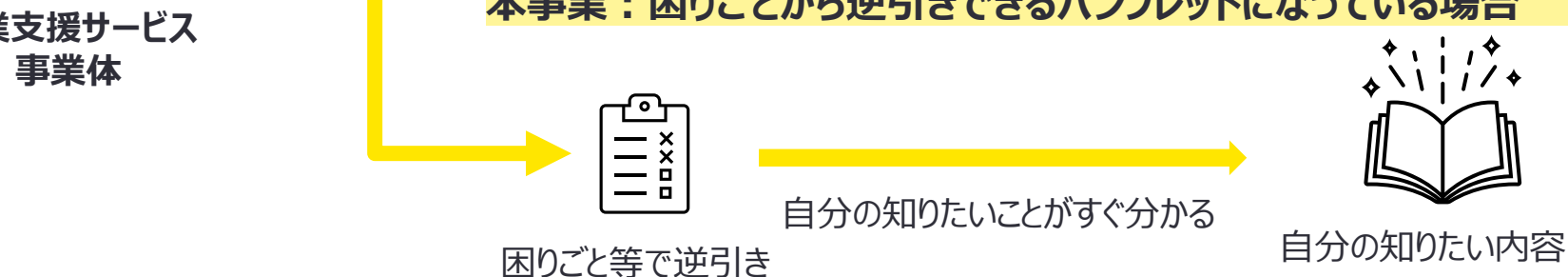
本事業内において精緻化

パンフレットを活用しやすくする工夫として、従来通り内容の目次での検索だけでなく、読み手の困りごと等からも逆引きすることで、知りたい内容にすぐ到達できる構成とすることを想定

従来：一般的な目次でパンフレットが作られている場合



本事業：困りごとから逆引きできるパンフレットになっている場合

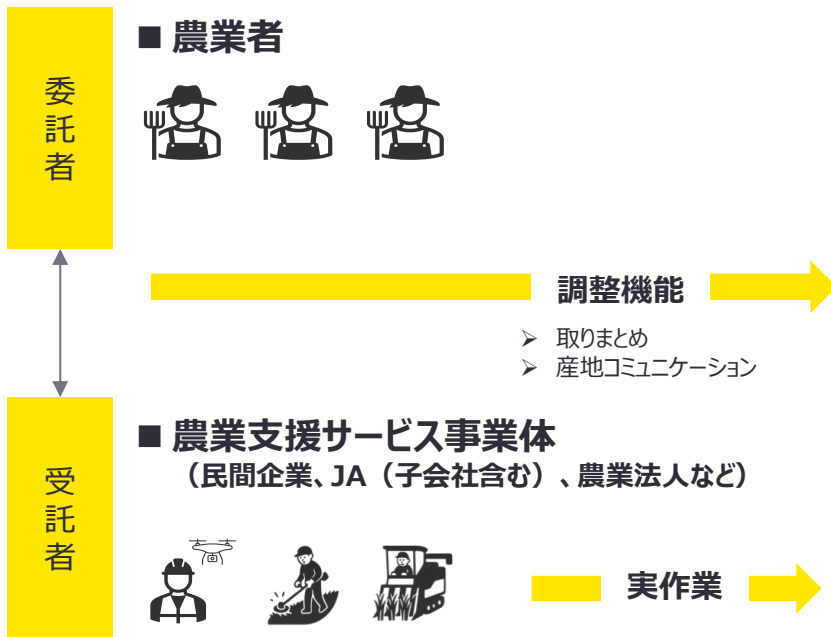


農業支援サービス事業者の業務を一部「元請事業者」や「下請事業者」に移管することで、リソースの共有と機能再配置による持続可能で効率的なサービス体制を実現する事業者も存在

農業支援サービスのうち専門作業受注型の類型整理

基本型

委託者（農業者）が作業を依頼し、
受託者（農業支援サービス事業者）が作業を実施する単純な構造



地域での派生型



受託者（農業支援サービス事業者）が業務の一部を外部委託することで、専門作業を複数のステークホルダーで分担する形態も存在
 ✓ 外部委託では、責任の所在、業務内容、追加で発生する業務（例：資材搬送、作業調整などのロジスティクス）について、事前に整理・明確化しておくことが必要

防除・収穫の場合は取りまとめ機能まで、草刈りの場合は単純な紹介にとどまる傾向

元請事業者

■ JA・部会・自治体など

地域での派生型①：地域仲介機能型

地域内の複数農家を取りまとめ、まとめて受託者に発注

- ✓ 地域に根差した“顔の見える関係”により信頼構築・トラブル防止に寄与
- ✓ 発注の安定化・調整機能を担保

ドローン防除の場合は組織的発注まで、草刈り・収穫の場合はアルバイト雇用程度にとどまる傾向

下請事業者

■ 中小・零細企業・地域の農業者など

※農業支援サービス事業者に該当

地域での派生型②：業務再受託型

受託者から再委託を受け、実作業を請け負う

- ✓ 中小・零細企業や兼業社（者）が隙間リソースや隙間時間を活用した対応が可能
- ✓ 人手不足の補完、人材や機械の固定費の変動費化に有効

専門作業受注型におけるトラブルを未然に防止するためには、委託者および受注者の責任範囲を明確にしたうえで、双方がその内容に合意したうえで作業を受託することが重要と理解

委託、受託のみ
基本型

防除作業の役割分担と責任範囲

作業フロー		作業前準備	圃場事前確認	見積もり	契約	作業実施	納品	作業後点検・整備
委託者  農家	—	○	△	○	—	△	—	
	—	・ 農家立ち合いの基 で実施	・ 事業者からの 提示内容確認	・ 両社の合意の うえ締結	・ 作業見学を 希望する場合有	・ 作業実施を 確認	—	
受託者  農業支援 サービス事業者	○	○	○	○	○	○	○	
	・ FISS登録、 機体整備等	・ 事前確認項目に 従って確認	・ 圃場状況に応じ料 金を設定	・ 契約書(作業説明 書)を提示	・ 防除作業を 実施	・ 農家の要望に 応じた納品	・ 清掃、作業後報告	
特に注目すべきポイント		・ 航空法に基づいた点検、報告が義務化	・ 網羅的な事前確認観点が必要 ・ 告知漏れによるトラブルは農家責任	・ 地域の標準価格ではなく、自社の持続可能な料金設定が必要	・ 現場負担を最小化するフォーマットが必要 ・ 作業スケジュールに起因する影響は農家責任	・ トラブル発生時の対応策検討が必要	・ 現場負担を最小化する納品方法が理想	・ 航空法、メーカーマニュアルに基づいた点検、報告を義務化

1.5 スケジュール

年間工程を鑑みると、繁忙期である農業支援サービス提供時期と、アンケート・ヒアリング調査時期が重なるものの、より困りごとを肌で感じている状況でのデータ取得の面では有効と理解

業務内容	2025年							2026年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ロードマップ			方向性合意	調査結果報告	標準サービス案の確認	パンフレット確認	次年度検討	報告書提出		
(1) 検討委員会開催			スケジュールのポイント	方向性合意のタイミングで机上調査を進めておくことで事業者と農業者のミスマッチの仮説を基に議論						
(2) 事業者の実態調査		机上調査・課題仮説	アンケート・ヒアリング調査							
(3) 標準サービス案の策定		スケジュールのポイント	標準サービス案策定							
(4) パンフレットの作成		調査結果報告のタイミングで、標準サービス案の初期案を提示し、成果物の目線を合わせて議論			パンフレット策定					
(5) ネットワーク構築							イベント開催(計4回)			
(6) 業界団体設立に向けた検討					業界団体の情報整理		効果的な機運醸成方法の検討			

スケジュールのポイント
 イベント開催時に業界団体のプロモーションを行うために、パンフレット策定と並行して業界団体の環境整備に向けた調査を実施



問合せ先

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社
公共・社会インフラユニット

パートナー

池尻能 *Atau Ikejiri*

Tel: +81 70 2475 0684

Email: Atau.Ikejiri@jp.ey.com

シニアマネージャー

田丸修 *Osamu Tamaru*

Tel: +81 70 2468 7408

Email: Osamu.Tamaru@jp.ey.com